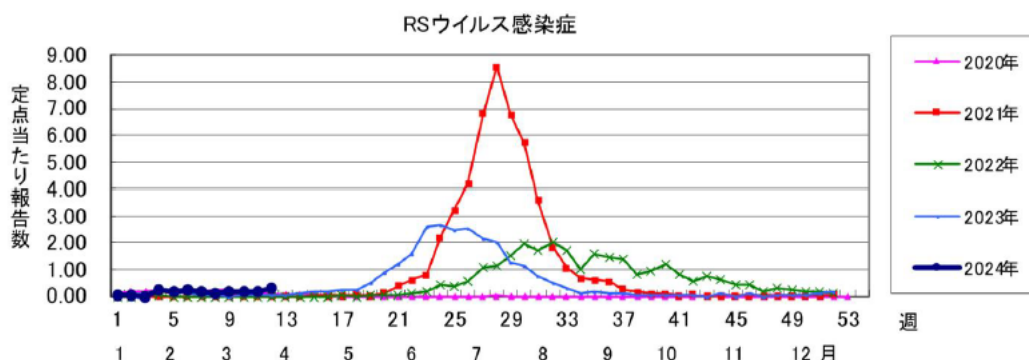


## 千葉県におけるRSウイルス感染症流行予測とパリビズマブ投与について 2024年～2025年シーズン（第2報）

日本小児科学会は、2019年4月に、最新のエビデンスと、現在の医療状況を反映したコンセンサスに基づく、「日本におけるパリビズマブの使用に関するコンセンサスガイドライン」を公表した。ガイドラインと千葉県内のRSウイルス感染症流行状況を考慮して、千葉県パリビズマブ適正使用ワーキンググループは、2024～2025年シーズンの流行状況を勘案し、パリビズマブ投与について以下を提案する。

1. 2024年3月17日時点において、全国13都道府県においてRSV流行が認められはじめている。<https://www.small-baby.jp/rsvirus/trend.html>。
2. 千葉県内では、2024年第12週分(3/18-3/24)では、定点当たり1.0以上の保健所はないが、県全体のRSV感染症の定点当たり報告数は前週(0.16)から増加し、0.29となっている。患者報告のあった保健所数は、10か所(野田、柏市、松戸、市川、船橋市、千葉市、印旛、海匝、長生、市原)で、RSV感染症による入院例も認められている。
3. 近隣都県(一都二県と茨城県)は、東京都、神奈川県、埼玉県で増加が継続している。
4. 上記の点を考慮し、第1報で通知したように今シーズンは2024年4月からパリビズマブ投与開始を検討する必要があると考える。
5. また、2024年3月26日、パリビズマブの適応拡大により、肺低形成、気道狭窄、先天性食道閉鎖症、先天代謝異常症、神経筋疾患を有する24か月齢以下の小児への投与が可能となった。新たな対象児に対しても、学会等から提唱されている手引き([https://www.jspid.jp/wp-content/uploads/2024/03/5rare\\_dis\\_20240326.pdf](https://www.jspid.jp/wp-content/uploads/2024/03/5rare_dis_20240326.pdf))を参考とし、個々の症例ごとに本剤の適用を考慮する。
6. 千葉県内において、パリビズマブ投与は、適応病名に関わらず、1シーズンあたり7回を目安に投与することを本ワーキンググループは提案している。ただし、感染症発生動向調査、患者周囲の流行状況、各地区医師会からの情報、近接都県の流行状況および個々の対象児のリスク等を勘案して、投与回数を柔軟に設定する。



2024年4月1日

日本小児科学会千葉地方会 千葉県パリビズマブ適正使用ワーキンググループ  
石和田稔彦 伊東宏明 大曾根義輝 大森俊 岡田広 門倉圭佑 北澤克彦 佐藤雅彦  
戸石悟司 西崎直人 東浩二 菱木はるか 福島裕之 星野直